

## 人工授精によるスイゲンゼニタナゴ繁殖の試み

佐藤二郎・増成伸文

スイゲンゼニタナゴは生息環境の悪化などにより生息尾数が減少し、環境省レッドリストで「絶滅危惧ⅠA類」に指定<sup>1)</sup>されている。また、本種は岡山県など極限られた地域にのみ生息しており、生息環境の保全と種の保存が重要な課題となっている。そこで、昨年に引き続き人工授精による繁殖を試みたので、その概要を報告する。

### 材料と方法

人工授精に用いた親魚は、2008年12月17日に高梁川水系で採集し、約60×36×30cm(容量57L)のガラス水槽において自然水温下で飼育した3歳魚と思われる体長20~30mmの12尾を用いた。'11年4~6月に成熟が進んだ親魚を用いて昨年と同様の方法<sup>2)</sup>で人工授精を行った。受精卵は、塩素除去後の水道水を入れたシャーレ(直径9cm)に収容し、温度を21℃に設定したインキュベータ内で稚魚が浮上するまで管理した。水替えは、新しい水を入れたシャーレに卵や仔魚をスポイドで移し替えることで行った。

### 結果

人工授精の結果を表1に示した。採卵は4月26日から6月17日までに14回行い、合計で72個の受精卵を得た。人工授精に使用した雌は延べ14尾で、1尾当たり1回の平均採卵数は5.1個であった。ふ化は授精後2~4日で見られ、67尾のふ化仔魚を得た。平均ふ化率は93.1%であった。

稚魚の浮上は授精後28~32日目に見られた。浮上稚魚は合計59尾で、ふ化仔魚からの平均浮上率は88.1%であった。インキュベータで水温を一定に保った結果、昨年<sup>2)</sup>よりも浮上率が22%上昇した。

### 文献

- 1) 環境省ホームページ, 自然環境・生物多様性, 環境省.
- 2) 佐藤二郎・増成伸文, 2011: スイゲンゼニタナゴの人工繁殖, 岡山水研報告, 26, 76~77p.

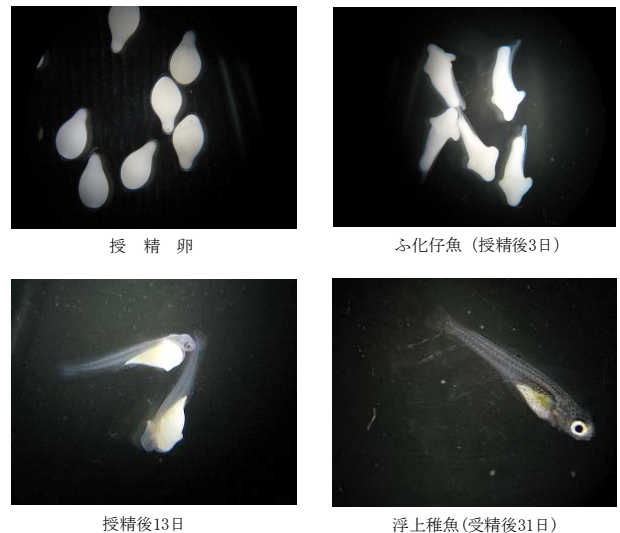


図1 受精卵及び仔魚の成長

表1 スイゲンゼニタナゴの人工授精結果

採卵月日	雌親数 (尾)	採卵数 (個)	ふ化月日	ふ化仔魚数 (尾)	ふ化率 (%)	浮上月日	浮上稚魚数 (尾)	浮上率 (%)
4月26日	3	16	4月29日	15	94	5月27日	15	100
5月2日	1	8	5月5日	8	100	6月1日	4	50
5月6日	2	9	5月9日	7	78	6月7日	6	86
5月13日	2	11	5月16日	10	91	6月10日	10	100
5月20日	1	5	5月23日	4	80	6月21日	3	75
5月27日	2	11	5月30日	11	100	6月28日	9	82
6月1日	1	5	6月4日	5	100	6月30日	5	100
6月7日	1	4	6月10日	4	100	7月7日	4	100
6月17日	1	3	6月20日	3	100	7月19日	3	100
計	14	72		67	93.1		59	88.1